

ツクシイヌワラビ	<i>Athyrium kuratae</i> Seriz.	絶滅危惧 I 類
		イワデンド科
選定理由	岐阜県には生育地、個体数共に極めて少なく存続の基盤が脆弱である。	写真(荻山恒弘)
形態の特徴	常緑性のシダ植物。タニイヌワラビによく似るが、葉柄基部の鱗片は茶色～茶褐色で小羽片の基部は羽軸に流れ完全には独立しない。	
生態的特徴	山地の急傾斜の林下に生育している。	
分布状況	県北の一部と美濃地方の狭い地域に生育していて、飛騨の生育地は北限に近いと思われる。	
減少要因	生育地の林下の光条件の悪化や土砂崩れ、シカの食害も考えられる。	
保全対策	生育地の森林の適度な管理維持が必要である。	
特記事項	タニイヌワラビとの雑種ナンゴクイヌワラビも見られる。	
参考文献	岩槻邦男. 1992. 日本の野生植物. シダ. P. 238. 平凡社. 東京.	

文責: 荻山恒弘